

2008年1月号(第8回)

近松活動の中心は市民です。  
近松を機会にして芸術や文学への興味を持つ人が増えてます。



## 近松座

立待地区は、日本のシェークスピアとも並び称される文豪・近松門左衛門のふる里です。そのことを誇りとして「たちまち近松まつり」では、人形浄瑠璃を自分たちの手で上演する「近松座」を中心にたくさんの市民が活躍しています。それは、市民と公民館と共に作り上げてきた市民活動の姿です。今回は立待公民館館長、高島信義さんにお話を伺ってきました。

近松門左衛門のふる里ということで文学碑が建てられたのが昭和53年でした。少し間があきましたが、近松門左衛門の顕彰と人形浄瑠璃を地区の人たちに知ってもらうため、地区的祭りとして「たちまち近松まつり」が始まったのが10年前になります。

最初のうちは、岐阜県の真桑文楽保存会の方々に公演して頂いたり、石川県白山市から文弥人形浄瑠璃に来て頂いたりしていました。そのうちに、地域文化掘り起こし事業の推進母体となっている「近松の里づくり事業推進会議」の席で、ある方が「見ているだけじゃつまらない。自分たちでも人形浄瑠璃を始められないか」と言い出したのです。

公民館や市は、提案もしますが、市民を支援するのが役割です。そういう地区の方のご意見を聞き、どうすれば出来るかと調べました。大阪や尼崎、人形浄瑠璃が盛んな徳島なども訪ねたりもしました。

そのうちに滋賀県長浜に「富田人形共遊団」という団体があり、そこで教えてもらえるということが分かったのです。

そこで2005年に開かれる国民文化祭に照準を合わせて、初演するという目標を持って「近松座」が創されました。そして、約7ヶ月にわたる猛特訓が始まりました。三味線や人形使い、スタッフなどが長浜と鯖江を行き来して練習を重ね、ようやく「傾城阿波の鳴門」を上演することができたのです。

現在では、鯖江人形浄瑠璃「近松座」として団員、スタッフ合わせて23名が活動しています。地区の方は9名で、あとは市内、外



■学校での公演もあるという子供人形劇



■にぎやかな地区のお祭りとしても定着した「近松まつり」



■近松座練習風景より

の方が活動されています。

今では演目も3つになり、いろんなところからお声がかかるようになりました。師匠の富田人形共遊団の公演などにもゲスト出演していますし、今年3月には嚮陽会館での公演も予定されています。

また、子どものころから近松に関心を持ってもらうために「たちまち近松人形劇団」の活動が2002年から始まっています。両親や地区の方々と共に練習し、近松まつりで発表しています。ゆくゆくは、子ども浄瑠璃までできたらと考えています。

こういう市民主導の活動で、地区の方が浄瑠璃に興味を持つようになり、文学・芸術に関心が高まりました。ただの娯楽ではなく、参加していくことが楽しみになっていくというのでしょうか。「観月の夕べ」も昨年で5回を数えていますが、たくさんの人々がおいでになっています。また、他の地区で開かれている歴史講座などに積極的に参加される方や県外で文楽を楽しんでいる方もおられます。

市民活動から、新しいこころのゆとりが生まれてきています。私たち公民館はこれからも積極的にそういった市民の方を支援して行きます。

お問い合わせ 立待公民館 TEL.0778-51-3376



編集・お問い合わせ この回覧板は、鯖江市との共創事業で発行しています。

特定非営利活動法人 **さばえNPOサポート**  
(さばえNPOセンター指定管理者)

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1丁目9-20 鯖江市民活動交流センター内  
TEL : 0778-54-7055 FAX : 0778-54-7058  
Email : info@sabae-npo.org

♥誰でも気軽に使える情報発信♥ ホームページ : <http://www.sabae-npo.org/>

